



敵討裏見葛葉

~13  
3958  
1



門 13  
號 3958  
卷 1



歌討裏見葛葉卷之二

曲亭馬琴戲編

水三

安倍保名大和川小狹と助く。附り楠木  
千枝丸勉之人の過と補ふ事

そのころ撰別住吉の片なり阿部野といふ処一人の賣卜者あり  
其名を安倍保名といふをち仲磨の後胤なりといふとも子孫零  
落。又保明の弱年小加茂保憲の塾生也あり。陰陽の道好  
まひ。小藝術いまだ熟く一旦女を小溺れくこよあはれの過  
小洛の住居なりと彼女とも小の阿部野小遊れ事の僅小賣卜

葛葉卷二

白狐水磨  
保名が  
細小羅る



どのく家の命と繋だつ。負しに申保名と幸生育と多とん  
 ともやうに。遂保明の身まうるぬ保名幼少く父喪ひ母小事く  
 考初母も又伶俐のあせい。そや寡小あつぬと婦の道を  
 ういあむ。糸と縹布を織伏屋の窓のいぶせ細けりつと  
 りろとも。の年月を倭く保名が成長をまらるる年来辛苦  
 の疲せまや去年の秋より持病の積聚小い。悩む水病の  
 床小あつ腰さくきく。保名もや十九歳のふ小あつ。惟  
 教るものきられども父が書める易学の書どもを熟讀し。毎  
 日小街小生く賣トと業と。僅むらうある後をひく。此のち





くろくまねが母もとありて小おほえ窮鳥懐小入るとある獵師も捕ら  
ひとどりのある況自抵は神あり。また小勲りあるとある保名ふ  
柴打林く抵を煖あどとあるふりやく駐生て次の日より物をし  
食ひ兩三日を控く氣力舊のどく小ええたる小抵ゆくともあぐべ  
比ともあぐ出まがり。あぐるまとの夕あり維がりて来るともあぐ  
捕らる鶴鷺鶴やうのれ保名が家の縁のゆり小あり又時と  
くハ鮎鯉あどもあり。くハ抵が再生の恩を忘れく。あぐるま  
くハ小捨あぐべは母もあぐる母小もあぐる告鳥と市は推しめは  
魚と交易あぐべく毎日小母の啼むれを進くまねが母も是

り食とくまねく。くろ清くくおほえく。まは腰のくまどあぐる。  
備亦矢田部判官定邦の悪者あぐく煉小く。輒く宮本が物  
怪以除一時小鬱憤と散ぜ。征よ宮悪者あぐを賞つ。緑あ  
まことく。叮嚀小召は小悪者あぐの元來便侮のれあぐ。主  
のそ海とありく。く後もあぐ出頭。重く用らるるあぐ。く昂  
きしも勝り。宮本の又物怪まりて後もあぐ。く小餘病を生。病を  
三十餘日。く終よあぐ。く定邦あぐ。哀と。挿頭の死  
く。く如く。く世の中の人を去るのれ疎くありゆ。あぐ  
く宮本死く。後いつとあぐ。千枝九が男も小泥寵愛却く

宮中も起これと千枝丸の豫く出家の志深たなり。敢て  
 ともとの初推しり仏門に教育せられあぐ。今仕管のす  
 り還俗破戒小異あつべせめての陰徳を積む。この罪障を滅せ  
 かとひ。後小とく朋輩小過あるを其のせが小引け  
 ぐ。これもさうあせ一過とせしむるが過と披ある。こと越度小  
 追放され只一日もさく正覚庵つり去らんとせられども定邦は  
 來の短慮小似けなく。寵愛のいとあつねがけ行ふふの千枝丸  
 があせ一過とせしむるをさうあせとせしむるも。弥子瑕が桃の食  
 ぐ。物も彼鄧通が銅山もあはれはむとせしむるも愛母のひなる。

金四

中年王と抱く王を碎くる。并に庄司別を  
 決く河内へ赴く事  
 年既小れくあつてまの春立ちり。まぐも如月のそとああり  
 ね河内も矢田部定邦去年の十月の洛小あり。その洛せん寺  
 る所も楠木千枝丸をさうあせとせしむる。往小治る兩顆の虫は日來  
 ちくもさうあせをさうあせとせしむる。よりことさうあせは小預るち  
 せは日夕も獲くさうあせとせしむる。く人ふらさるるあはれはせも洛へ  
 得くさうあせとせしむる。公務をさうあせとせしむる。あせとせしむる  
 ちくもさうあせとせしむる。あせとせしむる。あせとせしむる。あせとせしむる。

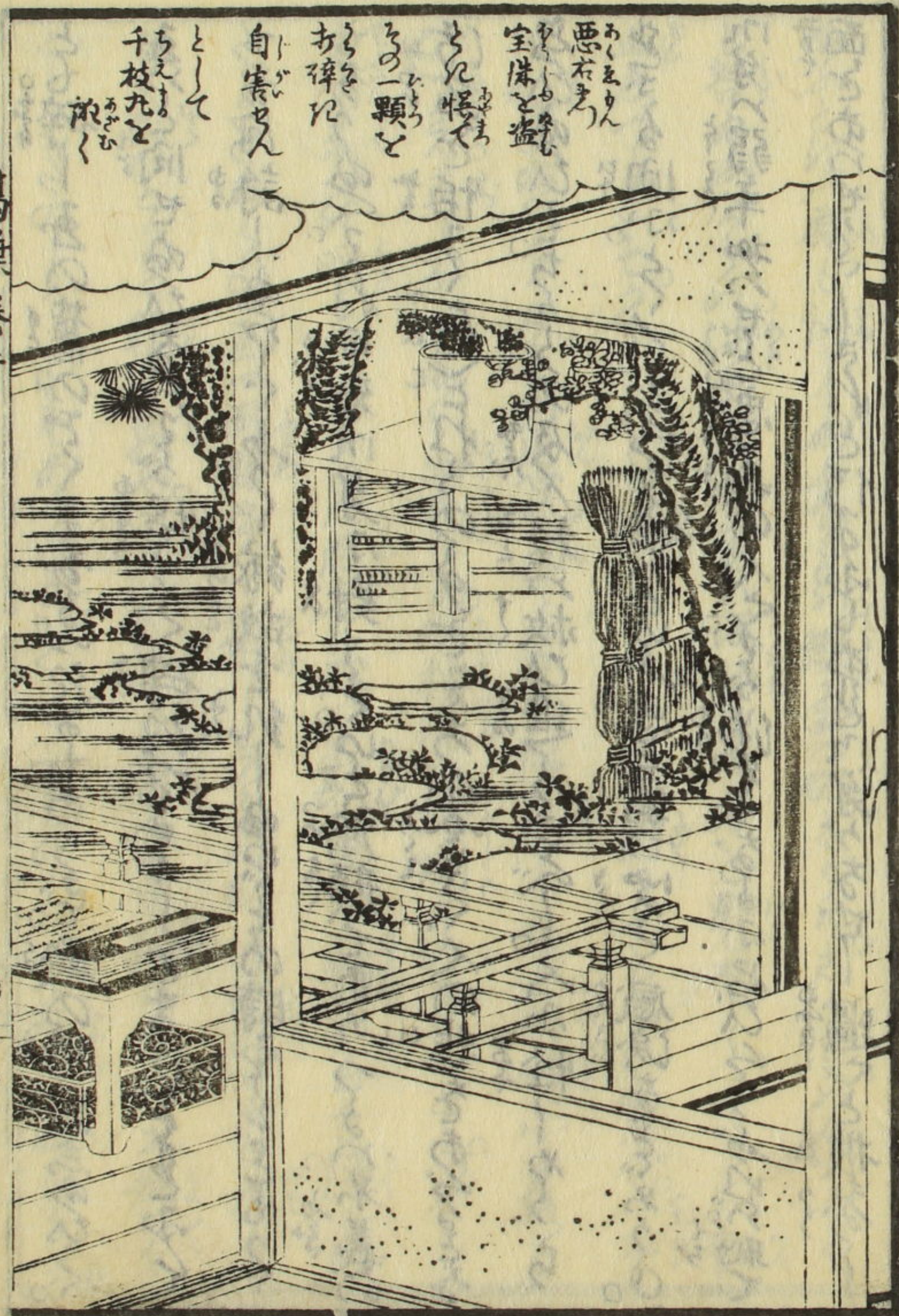
のく留とどめをせよといひく。件くだんの宝珠たからたまごと通とほず臙くさく上洛じやうらく志しさうられ。千枝丸ちえまるの謹つとむく命いのちとうけ彼かをさうがらる舎へやに秘ひめた。敵あかく人ひと小こえるとと許ゆるさざれば是こゝの先まへ石川いしかわ悪あく右みぎ出でつ。千枝丸ちえまるの男おとこさ小こころ。或あるこみおもがるといひつる。小こよの隙ひまありと潛ひそか飲のみひ母ははのをも病やまひ小こ斬きく。上君じやうきん上洛じやうらくの供たねとむらうとさ。矢田部やたべ小こ跡あとりとまうく。人目ひとめと志しのいつ。さうあくさひを運たとど。千枝丸ちえまるの定邦じやうぱう小こ仕しる。おろく。この身みか。あれは。い。不義ふぎの突つと締しめた。り。七強顔しちぢやうがんくお。う。味あじ既い小こ二月ふたつき小こる。主君しゆきんの帰かへ国くにも後あとちうたれ。悪あく右みぎ出でつ。い。奉意ほういさ。母ははえ。い。恨うらみを合あく。邪念じあんと。よ。あ。ま。い。れ。彼か小こ仇あかく。この

憤いかりを散ちを。と。て。ま。ま。ぐ。奸計けんけいを。め。ら。ま。は。ま。定邦じやうぱう上洛じやうらくの刻とき雨あめ顆かの。宝珠たからたまごを。千枝丸ちえまる小こ預あづかり。う。り。ま。ま。と。ま。ま。出で。く。あ。う。く。後あとこ。び。の。ら。彼かを。盗ぬす。く。う。た。れ。え。せ。う。ま。小こ飽あま。で。強つ面めんり。り。返報へんぱうせ。を。と。く。め。ら。う。その隙ひまを。窺うかが。う。と。い。知し。ま。う。く。千枝丸ちえまるの。有あ。り。一ひと。日ひ。庭にわ。よ。ま。出で。く。咲さ。揃そろ。る。紅梅こうばいを。餘念よねんあ。く。あ。る。居ゐ。る。を。悪あく。右みぎ。出で。つ。の。透す。垣かき。の。間ま。より。う。く。其その。処ところ。より。の。違ちが。い。備び。ある。紙窓かみまど。より。階い。び。や。う。千枝丸ちえまるが。ま。舎や。の。四隅しごもと。う。る。小南こなんある。架か。の。袋戸ふくろど。に。鎖かぎ。と。さ。う。なる。あ。は。い。か。彼か。処ところ。に。ま。ま。づ。潰つぶ。を。捻ね。切き。く。た。と。披ひ。け。ば。果は。く。く。裡うち。に。の。箱はこ。あり。た。く。蓋ふた。が。開あ。け。れ。又また。一ひと。ツ。の。箱はこ。あり。り。是こゝ。と。も。う。く。披ひ。く。る。る。小こ錦にしん



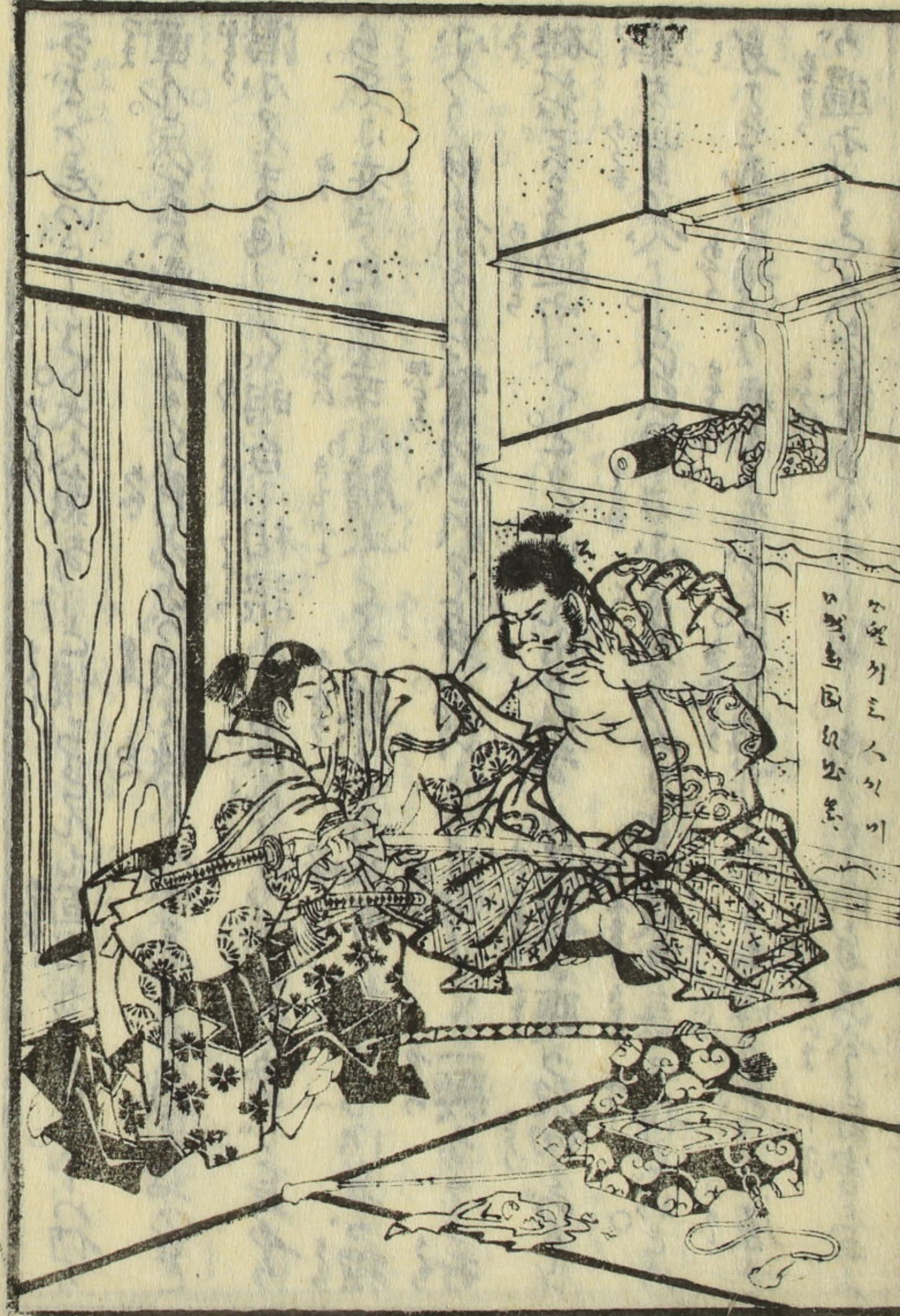
の別衣わかぎふりくへきともあくく包かちちとれあうんぶ物得ものえつとより出でせせびびのの小  
違ちがひひと両顆りやうかくのの玉たまありり。明あ晃わうととく一室いつしつと照てつつ。ととの清光せいこうあるる。  
比ひんん小これれああるるももままのの骨ほねははもううちち戴のせせくくとと骨ほね賞しょう嘆たんままるる折さししもも千  
枝え丸まる庭ていよりりううりり来きくく障せう子しと明あんんととままるる足音あしおと小こ悪あく右みぎままるるととろろ馬うまは  
相あい小こ花はなるる白しろままああくく玉たまををぶぶととののまま懐なつこころかからら入いるるとと一ひと顆かくのの玉たま  
もも股ももよりり轉まわ落お箱はこのの隅すみ小こ礫れきと當ありり。忽いちち四よつつ小こ碎くずししくく悪あくをを  
いいれれももここここ十じゅう枝し丸まるのの先さき景けいととるるととままるるととままるる慌あわたたつつ走はりり。とと  
慢まんとと正ただちち。何なにととせんせんととくく飛とちちりり。玉たまよりりももななほほるる胸むねのの碎くずるる。小  
小こささええりり。時ときはは悪あく右みぎままるるととろろをを鎮しずめめ十じゅう枝し丸まる小こ對たいととりり々々。わわかかくくまま

ままどどととままいい。ととくく大だい人にん氣きああ。とと恨うらみみららんんとと面めん目めああるるれれとと今いま何なにのの  
暈うんん。ととのの玉たまのの殿とのののあありりももああらら故ゆゑにに散ちるる人ひと小こええととああいいぬぬをを母ははのの  
滑すべりりまま海うみ。くく。明あ白はく小こ相あい語ごももにに身みももららけけ列りぬぬととああらら  
ららとと日ひ在あららぬぬをを幸さい小こ膽たん太たくくもも放はなすすらら出いせせるるおおししにに身みのの裡うち  
小こ入いるるああららちち驚おどろろたたれれええぬぬ。玉たまののううちち落おちち。とと二に顆かくああららおお  
碎くだれれぬぬ。とと過ありり。ととくくいいらんらんももひひああ。只ただ速すみはは腹はらううたた切きらら  
罪つみをを覺おぼすすべべ。ととひひつつりり小こ心こころををううららとと千ち枝し丸まる急いそ小こ押おししめめのの  
身み丁ていとと玉たまをを預あづかりり奉たまりりああらら。等おな閑かんししくくららちち碎くだれれぬぬ。とと原はらにに  
がが過ありり。ととくく人ひとをを替かへへるる小こううりり。ままるる小これれ身みはは今いま自じ害がい志しああ



悪右左衛門  
 宝珠と盗  
 とん恨  
 その一願と  
 ち碎れ  
 自害せん  
 とし  
 千枝丸と  
 敵く

葛葉巻二



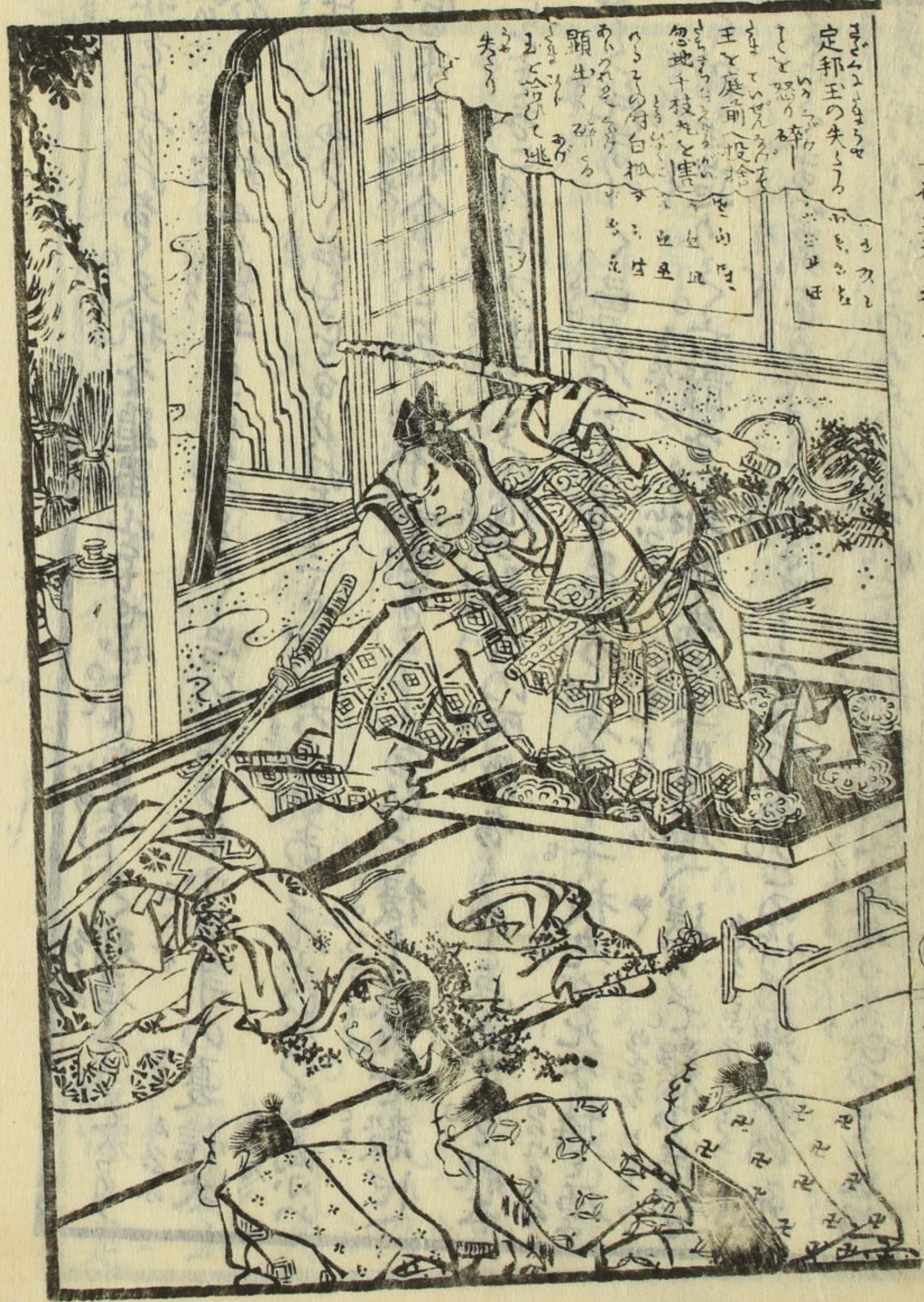
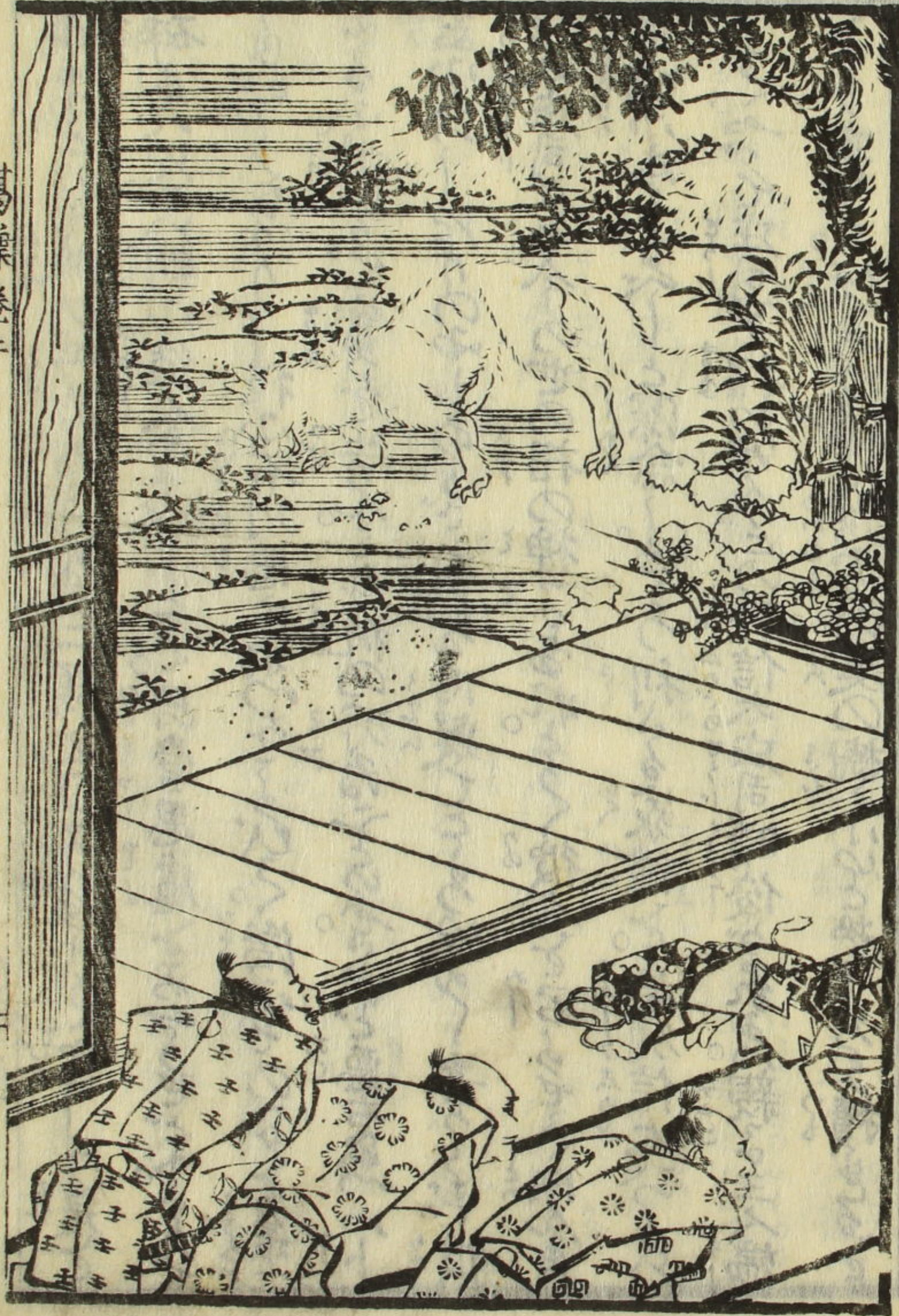
公望外三人外川  
 公望外三人外川



館たか小ち入えるとまく。まち千え枝ま丸るをなびく。預あるまをえとして仰す  
此ちの千枝え丸るをほく。此この相をりて出る定邦のとるもしは  
しとうち用ひく小。此この小碎をあらせ且驚れ且怒れとるの  
故を向小千枝丸のとひ設るもあらし畏て中やうに秘の  
宝珠とく預めひきと薙れ小をとりく散ゆひつとり  
さの小悟く兩顆あらうち降れぬその罪經れ小あらむと  
いどもあられ一命を助られ故郷へ追ふとれん小の莫大の患  
このあらむととして定邦の只呆をとりてが程の回答もせん  
かの缺ととれ彼まさらうとく継あらせつ眉を頻りて千枝丸

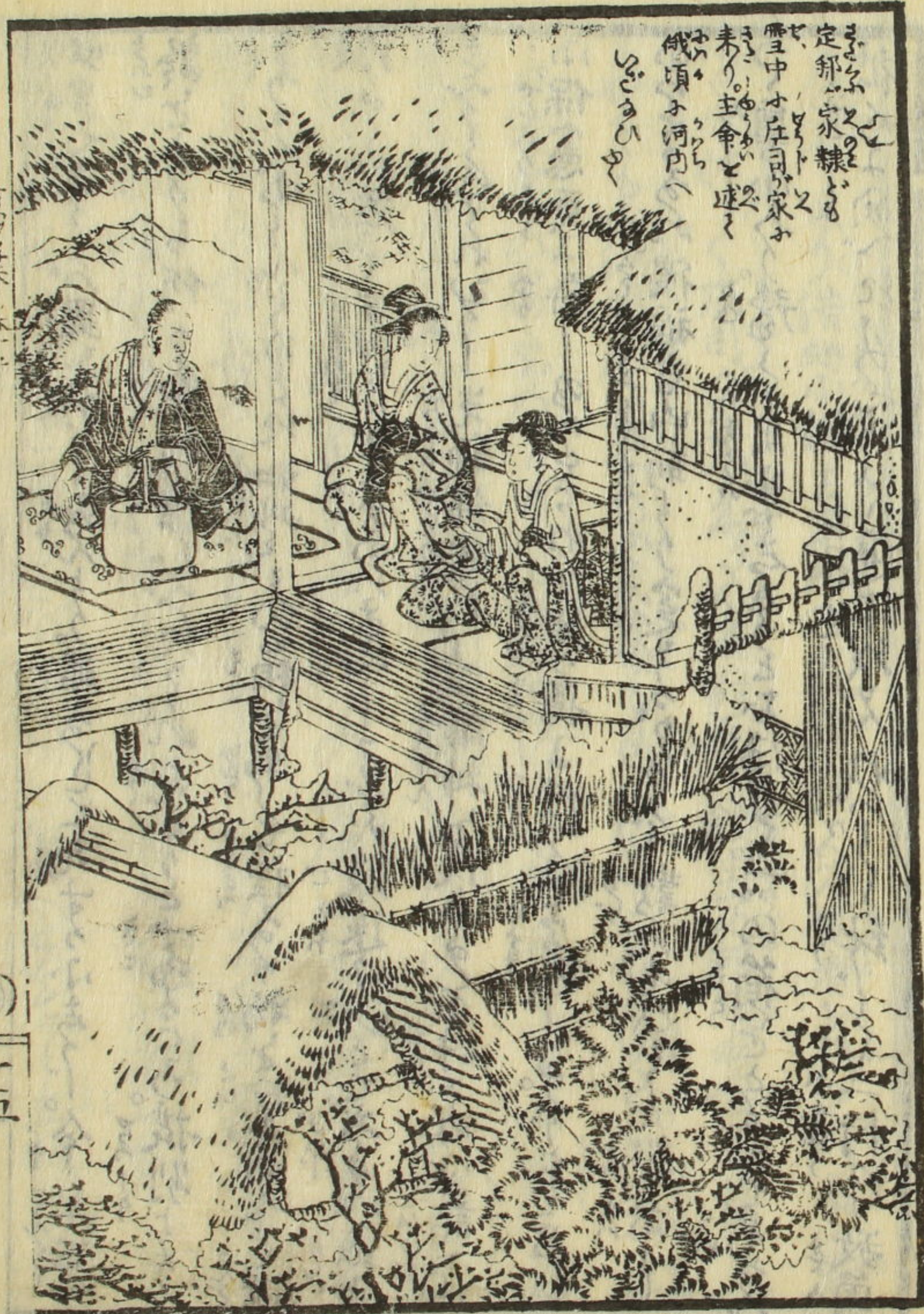
缺けつる玉の一顆と。今い顆の玉の小ちつと向小千枝丸もとり  
ちと曉り。その一顆の玉の悪者が盗り兩顆あらむと碎く  
りと偽りとす。もあらむとす。箱小を越つと越度  
あれとあらむとこの一朝小の諱むにあらぬが來れ小  
もいふと怒り。政を低く居らる定邦の光榮を怒  
あらむと小声をとりて千枝丸を破くともとすと實とらむとや也も  
誰んの求むと一顆を碎せともととすと實とらむとや也も  
あらむと日末の龍をとり足らむとす。潛小を密男小  
贈りとすと也。主城誰の愚者とりまらむといひとあらむと





まるごとく  
 定邦王の失ふる  
 ことと怒り  
 王と庭前  
 忽ち千枝と集  
 へるこの白根  
 ありて  
 顯出  
 王と公ひて  
 失ふ





定部 永隼  
 三 中 小 庄 司 家 子  
 未 命 主 命 速 々  
 俄 頃 子 河 内 へ  
 引 越 せ ぬ

御 前 御 座 敷  
 御 座 敷

十五



御 座 敷







